

霞ヶ浦の放射能汚染対策および防災対策についての緊急の質問書

国土交通省

霞ヶ浦河川事務所長 様

2012年2月23日

NPO 法人アサザ基金

代表理事 飯島 博

昨年の3.11以降、霞ヶ浦の放射能汚染への対応や直下型地震への備えについて、おおくの疑問点が生じています。これらは霞ヶ浦流域の住民にとって、命と健康、暮らしに関わる切実な問題であり、早急に対応が望まれます。

3.11以降、国は様々な分野で政策の見直しを行っていますが、霞ヶ浦においては政策の見直しは行われるのでしょうか。流域の人々に直結する問題ですので、霞ヶ浦河川事務所はどのように対応されるのか答えていただくようお願いいたします。以下の質問について2月末までに文書にてご回答ください。

質問1。 霞ヶ浦河川事務所は、アサザ基金が茨城県に要望書を提出した1月31日以降水位を下げはじめましたが、これは県がアサザ基金に回答したように「県からの申し入れがあった」からなののでしょうか。

質問2。 霞ヶ浦河川事務所は、2月11日以降再び逆水門を閉め切り水位上昇を開始していますが、これは当初の計画通り2月末～3月上旬に計画最高水位（Y.P1.3m）を達成するためなののでしょうか。

質問3。 計画最高水位に達成させる場合にお聞きします。水位を上昇させることは、破堤や液状化などの影響を増大させ、周辺住民へのリスクを高めることになるのではないのでしょうか。数年後に震源地に霞ヶ浦を含む大規模な直下型地震が予想されていますが（今日明日起きるかもしれません）、このような地震が起きた場合に、水位上昇を行っても危険は無いという科学的な根拠を示してください。しかも、堤防の破損箇所の補修工事はまだ終わっていません。

質問4。 昨年3月11日に発生した東日本大震災によって、霞ヶ浦でもほぼ全域で堤防の破損や周辺各地で液状化現象が発生しています。ちょうどこの時期は、水位上昇管理が実施中であり、最高水位に達成した直後にあたります。霞ヶ浦河川事務所では、今回の堤防の破損や液状化現象の発生と水位上昇との

因果関係に付いて調査と検証をされたのでしょうか。

質問5。 つぎに、放射能汚染対策について質問します。霞ヶ浦河川事務所には、原子力災害に対応する準備態勢はありましたか。ある場合、どのような内容か教えてください。

質問6。 水位上昇を行うためには、逆水門の閉め切り時間を増やし、開放時間を減らさなければなりません。それは、同時に湖の水を滞留させ流れをとめてしまうことを意味します。湖内の浮遊物その間に湖底に蓄積していきます。

昨年3月12日以降に数回の爆発が福島第一原発で起き、大量の放射性物質が大気中に散撒かれ、霞ヶ浦の湖面220平方キロメートルにも降下しています。常識的には、湖面に降下した放射性物質を速やかに湖外に排除するために、逆水門の開放時間をできるだけ増やし（水門の操作回数だけ増やしても意味はありません）、湖内の流動性を高めようとしますが、霞ヶ浦河川事務所はそのような積極的な処置を講じたのでしょうか。具体的なデータを示してください。

質問7。 霞ヶ浦の流入河川では、環境省による限定された地域での調査によっても、高濃度汚染が生じているホットスポットが検出されています。湖面積の約10倍ある霞ヶ浦流域に降下した放射性物質は、現在流入河川を通して霞ヶ浦へと移動しつつあると考えられます。この状況はこれから何年も継続することが予想されています。このような状況であるにも関わらず霞ヶ浦河川事務所は今年度も計画通りに水位上昇を行うために逆水門を締め切り湖水を停滞させ、わざわざ湖内での放射性物質の蓄積を促進するような行為を行っています。あなた達は、いったい誰のために誰の利益のために仕事をしているのでしょうか。役所の建前を優先させるために、国民の命や健康、暮らしを犠牲にしても構わないということでしょうか。県からの要望があるのでしょうか。

水余りが生じ、実際には霞ヶ浦の水位を上昇させて水を溜め込む必要が無いにも関わらず、このような非常時に住民にリスクを負わせてでも、それを実施し続ける根拠があれば示してください。 以上。

連絡先 NPO 法人アサザ基金事務所

〒300-1222 牛久市南3丁目4-21

でんわ 029-871-7166